



晩秋の多摩川干潟調査

気づけば今年も残すところ50日、

多摩川河口干潟では、あれだけ茂っていたイセウキも姿を消し、代わりにスズガモやキンクロハジロといった渡り鳥が飛来して、冬が近いことを予感させます

そんななか、水のなかの様子はどうでしょうか、今月の調査結果をお伝えいたします

今月のおさかな



魚入らず大苦戦！？

今回の地曳網は、これまでの調査で最も採れる生き物が少なく、全く魚が入らないこともありました。僅かに採れたのは、シラタエビ、アキアミ、アミ類ですが、春や夏の個体数とは比べ物になりません。魚はマハゼとアシシロハゼが1～2個体採れました。

そんななか、今回の注目はキチヌの稚魚です！キチヌはクロダイととても似ていますが、秋に産卵期を迎えます。小さいながらも立派に泳ぐ姿が見れました。

今月の人気者



マハゼ

今回、人気だったのはお馴染みマハゼです。それも我々だけではありません。調査地点周辺では、子どもから年配の方まで多くの方がハゼ釣りを楽しんでいました。

この1年、多摩川で立派に成長したマハゼ、もっと寒くなるとおそらく深場に移動してしまうと思われます。